

令和3年度第2回苫小牧市環境基本計画推進会議

会 議 次 第

日 時 : 令和3年10月5日 (火)
13時30分～
会 場 : 苫小牧市役所9階議会大会議室

1 開 会

2 環境衛生部長挨拶

3 委員・事務局自己紹介

4 報告等

5 議題

- (1) 苫小牧市第3次環境基本計画進捗状況（令和2年度）について
- (2) 令和3年度実施事業（活動報告及び今後の予定）について
- (3) 令和4年度実施事業（企画案）について

6 その他

7 閉 会

苫小牧市第3次環境基本計画に関する市の具体的な取組(令和2年度)

資料1-1

※「実施内容」「効果など」「評価」欄は、【苫小牧市第3次環境基本計画 第4章 具体的な取組「市の具体的な取組」】に基づく、各担当課からの回答となっています。

「◎」 施策達成
 「○」 概ね順調
 「△」 要対策
 「－」 その他

目標に到達している、適切に実施されている場合
 ほぼ目標に達している、概ね良好に実施されている場合
 目標に達していない場合
 未実施、廃止、達成困難と判断、止むを得ない事情による場合など

◎	61	98.4%
○	0	0.0%
△	0	0.0%
－	1	1.6%
	62	100%

安全安心快適なまち

(1) 健康で安全安心な生活環境を確保する

①公害の未然防止

No.	具体的な取組	担当課	実施内容	効果など	評価
1	企業の新規立地の際には、必要に応じて事前協議を行い、公害の未然防止に努めます。	港湾・企業振興課	環境保全対策が必要な工場などの受け入れに際しては、苫小牧市企業立地審議会において事前の評価・判断を実施します。令和2年度は条例に該当する工場等の立地はありませんでした。	条例に該当する工場等の立地があった場合には、苫小牧市企業立地審議会を開催し適切に評価・判断を行います。	－
2	公害防止設備の導入や改善のための支援に努めます。	商業振興課	公害防止設備の導入や改善を行う中小企業者等に対して、事業活動に伴って発生する公害を処理又は防止するための施設設備資金及び環境への負荷の低減や環境の保全に資するための施設設備資金により、環境保全対策の推進を図るとともに、中小企業への資金調達の円滑化を図りました。	中小企業者等に対し環境設備資金調達の後押しとなっています。	◎
3	市民などから寄せられる身近な公害苦情について、解決に向けて適切に対応します。	環境保全課	令和2年度は54件の苦情が寄せられましたが、現地調査や発生源に対する指導を行うなど、適切に対応しました。	市民の健康、安心・安全・快適な住環境の維持につながりました。	◎

4	航空機騒音の軽減のため、国などに対して要請を行います。	空港政策課	<p>航路下地域住民で構成する「苫小牧市航空機騒音対策協議会」及び本市において、航空機の騒音軽減や住宅防音工事等に関する要望活動を10月19日に北海道防衛局及び航空自衛隊千歳基地等で実施しました。</p> <p>なお、国土交通省及び防衛省に対しては、同日書面にて実施しました。</p> <p>また、11月19日に開催した本協議会において要望活動の報告、検証等を行いました。</p>	航空機騒音の実態や地域の要望などを国に直接伝えることが出来ました。今後も生活環境向上のため、要望活動を継続していく必要があります。	◎
5	市内の環境状況把握のため、各種監視測定を行うとともに、ホームページや環境白書等で広く情報を提供します。	下水道計画課	<p>市内事業所76箇所の排水の水質検査を9月～11月に実施しました。</p> <p>(下水道計画課)</p> <p>大気、騒音等の監視を行い、ホームページや環境白書等により情報提供を行いました。</p> <p>(環境保全課)</p>	<p>水質基準値不適合事業所に対する改善指導を、2月に行い、水質保全が図られました。</p> <p>(下水道計画課)</p> <p>大気、騒音等の状況については、広く市民周知ができました。(環境保全課)</p>	◎
		環境保全課			
6	公害の主要発生源となる企業と公害防止協定を締結し、公害の未然防止に努めます。	環境保全課	立地予定企業との公害防止に係る事前協議や公害防止協定締結35社全ての書面調査を行い、公害の未然防止に努めました。	公害防止協定締結企業の立入調査や指導及び立地企業との公害防止に係る事前協議により、公害の未然防止が図られました。	◎
7	アスベストについては、関係機関と連携・協力して、建築物の解体現場などから大気中への飛散防止対策の徹底を図ります。	環境保全課	大気汚染防止法の届出受理や立入検査、届出対象外の解体工事に対するアスベスト事前調査の確認等を行い、大気中への飛散防止対策を図りました。	立入検査時の指導や、事前調査結果の確認によりアスベストの大気中への飛散防止が図られました。	◎
8	環境汚染事故の際に適切な対応を行うため、関係機関や部署との連携強化に努めます。	危機管理室	環境汚染事故に関する対応については、庁内関係部署による情報共有を徹底するほか、必要に応じて危機管理室も現地調査に立ち会うなど正確な情報収集及び関係機関との連携強化に努めました。	庁内関係部署との連携強化により迅速な事故対応が可能となり、結果として汚染範囲の拡大防止や早期復旧につながっております。	◎
9	下水道施設の適正な維持管理や水処理により、河川や海域への水質保全に努めます。	下水道計画課	<p>処理水の水質3項目、BOD(10mg/ℓ以下)、SS(30mg/ℓ以下)、大腸菌群数(2000個/ml以下)に管理値を設定し管理しています。</p> <p>(下水道計画課)</p> <p>生活排水を処理する合併処理浄化槽設置整備事業を推進しています。また、すべての浄化槽管理者に対し設置後の適切な維持管理を促しており、令和2年度は不適正な浄化槽管理者に39件の改善通知を発送しています。</p> <p>(ゼロごみ推進課)</p>	<p>適切な維持管理により、公共用水域(河川・海域)に放流される処理水の水質安定に効果があり、令和2年度の実績値(速報値)は、BOD5.8mg/ℓ、SS12mg/ℓ、大腸菌群数41個/mlであり、周辺水域の水質保全に役立っています。</p> <p>(下水道計画課)</p> <p>合併処理浄化槽の普及拡大と適正な維持管理の促進により、生活環境の改善や河川等の汚濁防止を図ることが出来ます。このため、今後も対象地域の市民ニーズの把握に努めます。</p> <p>(ゼロごみ推進課)</p>	◎
		ゼロごみ推進課			

10	下水道について理解と関心を高めるため啓発に努めます。	総務課 (上下水道部)	世界的人気アニメ「ポケットモンスター」のマンホール蓋（「ポケふた」）を出光カルチャーパークに設置いたしました。	世界的人気の高い「ポケットモンスター」のマンホール蓋を設置することにより、マンホール蓋を通じて下水道への関心を高めることができました。	◎
----	----------------------------	----------------	---	---	---

②水源の保全

11	定期的なパトロールによる監視や清掃の実施により水源保護に努めます。	高丘浄水場 錦多峰浄水場	週1回のパトロールによる監視を実施しました。また、勇振取水場、幌内取水場及び錦多峰取水場の清掃を延べ7回実施しました。	水源の保護及び取水場の保全により、安全でおいしい水道水を守ることにつながりました。	◎
12	「安全でおいしい水」への理解を深めるよう啓発に努めます。	総務課 (上下水道部)	駅前の無料給水スポットに看板を設置し、リニューアルしておいしい水のPRを図りました。また、6月1日から7日の「水道週間」及び8月1日から7日の「水の週間」において、この週を「Water Drinking week」（水を飲む週間）と題し、とまチョップ水を1日1本飲もう運動を啓発しました。	無料給水スポットをリニューアルしたことにより、マイボトルへの市民の利用を促進し、苫小牧の「おいしい水」をPRすることができました。また、「とまチョップ水」を活用してPRを行うことにより、苫小牧の水が安心・安全な水として周知拡大を図りました。	◎
13	森林が有する水源かん養機能(洪水緩和・水資源貯留・水質浄化)の維持のため、関係法令や「苫小牧市水道水源の保護に関する指導要綱」に基づいた水源保護に努めます。	水道整備課 錦多峰浄水場	指導要綱に基づく水源保護地域内で、取水場水質に影響を及ぼす可能性のある事業者に対し、事前協議を10月14日に行い、10月21日に指導を行いました。	事業者との連携により、取水場水質は良好に保たれました。	◎
14	市民・事業者との連携による水源の保全に努めます。	錦多峰浄水場	関係団体及び事業者で構成する「水を汚染から守る会」で、取水河川（錦多峰川）流域での清掃活動を秋(10月16日)に実施しました。	73名が参加し、可燃及び不燃ごみ590Kg、粗大ごみ190Kg、その他廃棄物（テレビ2台、冷蔵庫、洗濯機、ソファ、廃タイヤ6本など）を回収しました。	◎

(2) 潤いと安らぎのある快適都市の形成を図る

①身近な自然環境の充実

15	公園などの身近な自然とふれあえる場の整備や適正な維持管理に努めます。	維持課 緑地公園課	公園と隣接する水辺の親水空間を利用しやすく整備し、1か月当たり2回のパトロールを行い、浚渫・清掃などを実施しました。 (維持課) 公園や緑地、植樹帯を適正に維持管理したほか、公園の再整備により、みどりを身近に感じる環境を整えました。 (緑地公園課)	適正な維持管理に努め、利用しやすい良好な環境が保全されました。 (維持課) 自然と身近にふれあえる、良好な環境が保全されました。 (緑地公園課)	◎
----	------------------------------------	--------------	---	---	---

16	市民植樹祭の実施など、まちぐるみで緑化活動を行う機会の提供に努めます。	緑地公園課	事業者団体が10月19日に緑地で植樹祭を開催し、50名の参加者がアカエゾマツ13本を植樹しました。	自然環境への意識向上と、良好な環境づくりが図られました。	◎
17	町内会や各種団体などと連携し、花や緑による環境美化に努めます。	緑地公園課	町内会など15団体に緑化資材を提供しました。	自然と身近にふれあえる、良好な環境づくりが図られました。	◎
18	「まちを緑にする会」などと連携し、市民への緑化普及・支援に努めます。	緑地公園課	11月5日に市民参加の緑化イベント「樹木探索会」を開催しました。	自然環境への意識向上と、良好な環境づくりが図られました。	◎
19	市民・企業の緑化活動に対する支援に努めます。	港湾・企業振興課 緑地公園課	苦小牧市企業立地振興条例に基づく緑化助成制度を周知し、緑化保全を推進しました。また、工場立地法に基づく申請を受理し、工場立地に係る環境保全の適正化を図りました。 (港湾・企業振興課) 市民3団体に緑化活動資金を助成しました。 (緑地公園課)	令和2年度は緑化助成制度の該当がありませんでした。工場立地法については、5社の申請があり、その際に環境保全の指導を行いました。法に基づく適正な工場立地により、環境保全が図られました。 (港湾・企業振興課) まちの環境美化が図られました。 (緑地公園課)	◎

②環境美化の推進

20	関係機関との連携やパトロールの実施、市民からの情報提供により、警告看板や監視カメラなどを設置し、不法投棄の未然防止と早期発見に努めます。	ゼロゴミ推進課	国・道等の関係機関と監視カメラの導入や抑止看板の設置などについて協議し、郊外の道路脇に試験的に監視カメラの設置などを実施しました。また、警察と連携した投棄者対応を行うなど、不法投棄撲滅に努めました。	不法投棄の発生件数は一時期に比べ半減しており、令和2年度は88件でした。今後も抑止看板や監視カメラによる未然防止策と各関係機関との連携した対応などにより不法投棄ゼロを目指します。	◎
21	家庭ごみ戸別収集の段階的導入に向け、モデル区域での試行を通して検証を行います。	ゼロゴミ推進課	戸別収集については、モデル地区試行後に行った検証結果から、高齢者等のごみの排出にかかる負担軽減や適正な分別といったメリットがある一方、収集運搬にかかる負担や作業時間の増加といったデメリットがあり、当面はステーション方式を軸とし、一部戸別収集を併用することとしております。 令和2年度は、コロナ禍を踏まえ、全市拡大の方針を一時凍結する旨を発表しておりますが、モデル地区において戸別収集の排出ルールの再徹底を促すなど、収集作業の効率化を図りました。	引き続き検討を進め、「ふくしのまちづくり」にふさわしい苦小牧方式のごみ収集の在り方を模索していきます。	◎

22	「共同住宅ごみ排出マナー改善対策協議会」を通じて、共同住宅におけるごみ排出マナー向上に努めます。	ゼロごみ推進課	令和2年度は「共同住宅ごみ排出マナー改善対策協議会」を书面開催しました。また、これまでに、ごみの排出管理が良好な共同住宅23件を「共同住宅優良ごみステーション」として認定しています。	ごみの排出マナーは排出者の意識向上が不可欠であり「共同住宅ごみ排出マナー改善対策協議会」と連携した取り組みにより、入居者のごみ分別の意識向上につながりました。	◎
23	春と秋の大掃除やごみ拾い大作戦など、市民参加型のイベントを行い、まちぐるみで環境美化活動を推進します。	ゼロごみ推進課	春の大掃除は中止としましたが、10月1日～10月31日を秋の大掃除月間として町内会、事業所等234団体（13,889名）により河川付近も含めた清掃活動を実施しました。また、各団体に対し、ごみ袋の提供及び廃棄物の収集等の支援を行いました。	市民の清掃意識の高揚が図られ、まちの環境美化につながりました。	◎
24	ぼい捨て防止対策の強化と、市民や事業者などの環境美化活動への支援に努めます。	ゼロごみ推進課	053大作戦事業にて市民周知を含め「ぼい捨て防止看板デザインコンテスト」を行い、市民の原案によるぼい捨て防止看板を作成しました。また、最優秀作品については、ふるさと海岸に看板を設置するなど、市民周知に努めました。	市民参加型の環境美化活動は個々の意識の増加にもつながることから、市民との協働作業によるぼい捨て防止活動をPRすることで、街の環境美化と清掃意識の高揚につながりました。	◎

人と自然が共生するまち

(1) 人と多様な生物が共存する豊かな自然環境を保全する

①自然環境保全

25	環境被害が確認された特定外来生物の調査及び捕獲に努めます。	環境生活課	アライグマ311頭の捕獲を行いました。また、生息状況に関する調査を実施しました。	在来生物の生態系や生息環境を維持し、農業被害の低減が図られました。	◎
26	美々川流域等のすぐれた自然地域や自然環境保全地区などの保全に努めます。	環境生活課	市内5か所ある市自然環境保全地区の、監視業務（計78日間 4月～11月）を実施し、保全に努めました	良好な自然景観や緑地を形成している地区及び動物の生息地について保全が図られました。	◎
27	地域の自然生態系の現況を周知し保全に努めます。	環境生活課	「いのちの授業」や「自然ふれあい教室」他、エゾシカやアライグマに関する捕獲・調査を実施しました。	自然生態系について周知され、保全が図られました。	◎

②自然保護の推進

28	自然観察会や傷病鳥獣救護ボランティア講座など、自然とふれあい学ぶ機会の提供に努めます。	環境生活課	9月2日にウトナイ湖漁業体験を開催し、27名が参加しました。	自然環境保全に関する知識の普及、情報の提供及び意識の高揚が図られました。	◎
----	---	-------	--------------------------------	--------------------------------------	---

(2) 緑あふれる豊かな環境を次世代に引き継ぐ

①緑の育成と保護

29	森林などの開発行為に対して、適正な規制と指導を行います。	環境生活課	「苫小牧市自然環境保全条例」の周知とともに、審査・指導及び13件の開発行為許可を行い、自然環境の維持に努めました。 (環境生活課) 25件の伐採届出を受け、適正な実施の指導を行いました。 (緑地公園課)	適正な規制と指導により、自然環境の保全が図られ、快適な生活環境を維持することができました。	◎
		緑地公園課			
30	市有林の維持管理を行います。	緑地公園課	下草刈りを実施し、樹木の生育環境を整えました。	災害防止など、森林が持つ公益的機能が保たれました。	◎
31	森林を守るため、山火事防止の促進や病虫害などの防除に努めます。	緑地公園課	林野火災予消防対策協議会の開催や樹木を食害する野ねずみ駆除を行いました。	山火事予防の意識向上と森林被害を防ぐことができました。	◎

資源を大切にすまち

限りある資源を有効に無駄なく環境にやさしいまちづくりを進める

①ごみの減量化

32	4 R の推進を図ります。	ゼロごみ推進課	市内小中学校、町内会や市民団体などに対して、出前講座を14回実施したほか、次世代教育として、環境教育副読本を市内の小学校4年生と中学校1年生に配布しました。また、未就学児を対象にシールを貼り、遊びながら学べるリーフレット「ECO 苦ばんび！」を作成し、周知啓発に努めました。また、今年度は053大作戦～ステージ5～の各種事業やイベントを通じて幅広い世代への周知啓発を行いました。	啓発活動により、幅広い世代に、ごみ減量・リサイクル推進の周知につながりました。	◎
----	---------------	---------	---	---	---

33	生ごみ3きり運動を推進します。	ゼロごみ推進課	「使いきり」「食べきり」「水きり」の3つのきりである「生ごみ減量3きりプチダイエット」を広報紙により周知したほか、市内小中学校、町内会や市民団体などに対して、出前講座を14回実施しました。また、次世代教育として、環境教育副読本を市内の小学校4年生と中学校1年生に配布しました。	啓発活動により、ごみ減量・リサイクル推進につながりました。	◎
34	ごみ分別と減量について、広報誌やホームページ等による情報提供及び出前講座・各種イベントによる周知啓発の充実を図ります。	ゼロごみ推進課	環境戦隊ゼロごみファイブのYouTubeチャンネルの作成や、インスタグラムなどのSNSを通じて、ごみに関する様々な情報を発信し、広く周知しました。YouTubeチャンネルの登録者数は113人となり、視聴回数は4,254回、インスタグラム再生回数は5,262回でした。	ごみ減量・リサイクル推進の周知につながりました。	◎
35	事業系ごみ減量に向け、排出事業者及び収集運搬業者に対し、適正な分別・処理方法について周知等を行います。	ゼロごみ推進課	沼ノ端クリーンセンターにおける展開調査は、コロナ禍に配慮し、実施を見送りましたが、事業所から出される感染症が疑われる廃棄物の処理方法について、適切に指導しました。	感染拡大に配慮しながら適切に処理することができました。	◎

②資源の有効利用の推進

36	リサイクルプラザ苫小牧において、各種情報の提供、体験講座やイベントを実施し、意識啓発に努めます。	ゼロごみ推進課	体験講座のDVD配布やオンライン講座を試行したほか、リサイクル自転車抽選などを市内の公共施設からも申込み可能としました。	電子媒体による市民周知に加え、多様な申込方法を設定することにより、幅広い年代への周知につながりました。	◎
37	生ごみの減量に向け、コンポスト容器等の購入助成や、生ごみ分解容器「キューロ」の普及などに努めます。	ゼロごみ推進課	新聞記事により市民周知を行い、コンポスト54個、EM密閉式容器7個、電動生ごみ処理機17台、キューロ10個、トッシュファミリー26個の購入助成を行いました	市民のリサイクルに対する意識が高まり、生ごみの減量化・資源化につながりました。	◎
38	生ごみの資源化に向けた施策の調査・研究を進めます。	ゼロごみ推進課	生ごみ資源化に向けた施策として、給食センターから学校給食残渣の一部を堆肥化し、沼ノ端クリーンセンター内の花壇に使用して053フェスタの撮影スポットとして市民に周知しました。	啓発活動により、幅広い世代に、生ごみ減量化・資源化の周知につながりました。	◎
39	建設リサイクル法による届出の周知と指導に努めます。	建築指導課	建設リサイクル法に基づく届け出を297件、通知165件受け付けました	資源の再利用化が図られました。	◎

40	古着古布等の拠点回収の推進に努めます。	ゼロごみ推進課	コロナ禍により「綿50%以上」に限定しましたが、公共施設8か所で回収を行い、10,055kgを工業用ウエスに資源化しました。	市民のリサイクルに対する意識を高めるとともに、ごみの減量化・資源化につながりました。	◎
41	家庭及び事業所から排出される資源物の分別徹底の周知に努めます。	ゼロごみ推進課	普及が拡大しているスマートフォン向けのアプリを開発し、環境行政に関わる様々な情報を提供しました。	アプリの機能に収集カレンダーやごみ分別方法や検索機能、お知らせなどの情報発信機能を搭載し、幅広い年代にごみに関する意識を高めました。	◎
42	リサイクル製品やグリーン製品の普及啓発に努めます。	ゼロごみ推進課	JFEリサイクルプラザ苫小牧において、ペットボトルから服へのリサイクルなど、来場者へリサイクルに関する情報提供を行いました。	今後もリサイクルに関する体験講座の開設や、工場見学などを通じて、市民周知に取り組みます。	◎

みんなで環境に取り組むまち

(1) 環境を学び、大切に作る心を育む

①環境教育の推進

43	小中学生を中心とした次世代市民に対し、環境教育副読本の配布やいのちの授業などの出前講座を実施し環境教育の充実を図ります。	環境生活課	「いのちの授業」を50回実施し、延べ1,547名が受講しました。また、苫小牧市教育研究所環境教育研究委員会の協力により、小学生副読本・中学生副読本をそれぞれ作成、各小中学校へ配布しました。	「いのちの授業」では、自然環境保全に関する知識の普及、情報の提供及び意識の高揚が図られました。また、副読本については、小学4年生と中学1年生の授業等で用いられており、次世代を担う若年層への啓発となりました。	◎
		ゼロごみ推進課			
		環境保全課			
44	小中学校省エネ行動教育プログラム事業を行います。	教育総務企画課	小学校23校、中学校14校が実施校として、学校全体で省エネ活動に取り組めました。	児童・生徒が省エネ型の生活習慣を身に付け、環境問題への意識を高めることが出来ました。今後も環境教育の一環として、取り組みを継続します。	◎
45	各種出前講座や体験学習会などを実施し、広く環境学習機会の提供に努めます。	環境生活課	「自然ふれあい教室」を8回開催し、延べ616名が参加しました。また、小・中学校において出前講座4回、夏冬の自由研究所はオンラインでの講座を実施しました。	「自然ふれあい教室」では、自然環境保全に関する知識の普及、情報の提供及び意識の高揚が図られました。環境学習の出前講座では、ごみの減量と分別、リサイクルについて学習を深めることで、ごみの減量化・資源化の啓発につながりました。	◎
		ゼロごみ推進課			
		環境保全課			

(2) よりよい環境づくりを進める活動の輪を広げる

①市民・事業者・周辺地域との連携づくり

46	環境保全活動推進のため、広報誌やホームページなどによる情報提供に努めます。	環境生活課 ゼロごみ推進課 環境保全課	各事業・イベントなどの情報を市ホームページや広報とまこまい及びフェイスブックに掲載し、周知を図りました。	広報とまこまい、ホームページ、フェイスブックを活用することで、より多くの方々に効果的な情報発信をすることができました。	◎
47	ごみ出しが困難な高齢者世帯や障がい者世帯を支援するため、「ふれあい収集」を推進します。	ゼロごみ推進課	日頃のごみ出しに困っているひとり暮らしの高齢者や障がい者等703世帯を対象に、声掛けを行いながら訪問する「ふれあい収集」を実施しました。	自立した生活を営むための在宅サービスの支援につながりました。	◎
48	「苫小牧市環境基本計画推進会議」による事業を実施します。	環境保全課	苫小牧市環境基本計画推進会議を3回開催し、4つの事業を実施し一般市民延べ143名が参加しました。	市民、事業者、市との三者による会議で、各種事業を企画・運営し、環境への取組みを実践することができました。	◎
49	ごみの広域処理やリサイクルなど、周辺地域と連携し取組を推進します。	ゼロごみ推進課	共生ビジョンに基づき、安平町・厚真町からの広域処理を継続しました。また、次年度に向けて、白老町からの一般廃棄物処理後生成物を苫小牧市内の中間処理施設に搬入する協議を行いました。	廃棄物処理施設を広域化することにより、経済的かつ効率的な維持管理を行いました。	◎

地球環境にやさしいまち

環境に配慮し、地球温暖化対策を目指したまちづくりを進める

①省エネルギーの推進

50	エコオフィス宣言を募り、優良な取組事例をホームページで紹介します。	環境保全課	ホームページや各種事業において周知を行い、392の事業所（R3. 3. 31現在）が省エネに向けた取組を実践しています。	省エネに率先して取組む事業所が増え、CO2削減が推進されました。	◎
51	国や道、団体などの補助制度の情報を提供します。	環境保全課	ホームページに各機関による省エネルギー関連の助成制度等の情報を掲載しました。	事業者における省エネルギーの開発・導入が促進されました。今後も掲載を継続します。	◎

52	低利融資制度による中小企業に対する省エネ設備・機器や低公害車の導入支援に努めます。	商業振興課	公害防止設備の導入や改善を行う中小企業者等に対して、事業活動に伴って発生する公害を処理又は防止するための施設設備資金及び環境への負荷の低減や環境の保全に資するための施設設備資金により、環境保全対策の推進を図るとともに、中小企業への資金調達の円滑化を図りました。	導入を希望する中小企業者等に対して低利な資金調達を可能としています。	◎
53	環境マネジメントシステムや省エネ無料診断など、省エネルギーに関する情報提供に努め、事業者の自主的な行動を促します。	環境保全課	ホームページのリンクに掲載しました。	より多くの事業者が積極的に環境保全に向け取組むことが出来るよう、各種情報の周知を継続します。	◎
54	「建築物のエネルギー消費性能の向上に関する法律」の周知と規制・指導に努めます。	建築指導課	建築物省エネ法の届出が59件あり、建築物省エネ基準に関わる適合の可否を確認しました。	建築物の省エネルギー性能の向上が図られました。	◎
55	一般家庭での省エネルギーシステムの導入や断熱改修などのリフォーム支援に努めます。	環境保全課 建築指導課	省エネ給湯暖房機の導入補助に144件、その他設備に17件、住宅耐震・リフォーム支援事業へは91件を受け付けました。	エコキュートへ37件、エコジョーズへ43件、エコフィールへ64件、ホームエネルギーマネジメントシステムへ7件、定置用リチウムイオン蓄電池へ8件、コレモへ2件、外壁の張替え28件、窓サッシ交換9件、ボイラー交換11件などの省エネ設備の導入が促進されました。今後も助成については、市民ニーズ等を勘案して判断し、取組を継続します。	◎
56	低炭素建築物認定制度の周知に努めます。	建築指導課	低炭素建築物認定申請が2件あり、「低炭素建築物に関する法律」による認定の可否を確認しました。	建築物の二酸化炭素排出の抑制が図られました。	◎
57	家庭内での省エネルギー推進のため啓発に努めます。	環境保全課	節電や省エネルギーに対する意識を高め、環境保全に向けた取組みを促進するため、「省エネコンテスト」を開催しました。25名の参加があり、省エネ活動部門・でんき使用量削減部門それぞれ上位3名を表彰しました。	令和2年度は、若年層をターゲットとしSNSを活用したコンテストを実施しました。今後は幅広い世代が参加出来るよう、募集方法を改善しながら、市民一人ひとりの省エネ行動の呼びかけとして継続します。	◎

58	地域公共交通の維持・確保及び利用促進に努めます。	まちづくり推進課	新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、デコレーションバスの運行や「バスの日イベント」などが中止になりましたが、コロナ禍においても開催された「JRヘルシーウォーキング」、「たるまえサンフェスティバル」、「とマイルスクエア」といったイベントに合わせて、公共交通利用を促すポスターを作成し、市内及び近隣市町村の公共施設等に掲出しました。	イベント開催に合わせてポスターを掲出し公共交通の利用を促すことで、利用者の減少により大変厳しい状況にある公共交通機関の利用啓発が図られました。	◎
59	エコドライブの普及推進に努めます。	環境保全課	パンフレットやホームページによる周知や、小型計測器を用いたエコドライブコンテストを開催し、新たに40件のエコドライブ宣言が得られました。6月の「環境月間」には、市職員の意識向上と取組の再認識を目的に「エコドライブのすすめ」を実施しました。	エコドライブシミュレーターなどの体験を通して、市民への啓発となりました。また、「エコドライブのすすめ」を実践したことで、期間中15,254リットルの燃料削減と35,084kgのCO2排出削減につながり、地球温暖化防止におけるエコドライブの重要性を発信できました。	◎

②新エネルギーの導入推進

60	水素エネルギーなど新エネルギーの導入促進のための調査・研究に努めます。	工業・雇用振興課 環境保全課	国・道が主催する会議やセミナー等に参加し、情報収集を行いました。	国・道・自治体などで実施している再生可能エネルギーの導入事例について、情報を収集することができました。	◎
61	新エネルギーシステムの導入支援に努めます。	環境保全課 建築指導課	住宅用太陽光発電システムへ14件、住宅耐震・リフォーム支援事業へは91件に助成しました。	住宅用太陽光発電システムをはじめ、各種設備の導入が促進され区域の温室効果ガス排出量削減が図られました。今後も助成については、市民ニーズ等を勘案して判断し、取組みを継続します。	◎
62	国や道、団体などの補助制度の情報を提供します。	環境保全課	ホームページに各機関による新エネルギー関連の助成制度等の情報を掲載しました。	事業者における新エネルギーの開発・導入を促進しました。今後も掲載を継続します。	◎

苫小牧第 3 次環境基本計画における目標の達成状況

目標の達成状況

目標達成の指標のうち、市民意識調査結果の満足度による指標は、次期総合計画改定に向けた市民意識調査結果満足度との比較による評価となります。その他の指標に関する進捗状況は以下のとおりです。

《安全安心快適なまち》

市民の健康の保護、生活環境の保全及び自然環境の適正な保全のため、大気、水質などの項目について、達成指標を設定し環境の保全に取り組んでいます。

■大気

項目	達成指標	達成状況
大気汚染 常時監視結果	すべての測定地点で 環境基準達成	光化学オキシダントについて、明野公園局以外の測定局で環境基準未達成となっております。 その他の測定項目は環境基準を達成しています。

■水質

項目	達成指標	達成状況
河川の水質測定結果	すべての測定地点で 生活環境項目（BOD） の環境基準達成	評価方法が定められている生物化学的酸素要求量 BOD について、全ての測定地点で環境基準を達成しています。
	すべての測定地点で 健康項目の環境基準 達成	全ての測定地点で環境基準を達成しています。
海域の水質測定結果	すべての測定地点で 生活環境項目（COD） の環境基準達成	評価方法が定められている化学的酸素要求量 COD について、22 の測定地点の内 1 地点で環境基準未達成のほかは、21 の地点で環境基準を達成しています。
	すべての測定地点で 健康項目の環境基準 達成	全ての測定地点で環境基準を達成しています。

■騒音

項目	達成指標	達成状況
環境騒音測定結果	すべての測定地点で環境基準達成	全ての測定地点で環境基準を達成しています。
自動車騒音測定結果		全ての測定地点で環境基準を達成しています。
航空機騒音常時測定結果		全ての測定地点で環境基準を達成しています。

■振動

項目	達成指標	達成状況
道路交通振動測定結果	すべての測定地点で要請限度値未満	全ての観測地点で要請限度を達成しています。

■悪臭

項目	達成指標	達成状況
悪臭に係る立入調査	立入測定を行った事業所のすべてにおいて規制基準値超過0件	3事業場において延べ5回の立入測定を実施したうち、1事業所の調査で一部規制基準値の超過が見られました。

《人と自然が共生するまち》

豊かな自然を守り人と自然が共生していくために、自然にふれあう機会の提供を行い自然保護に対する意識向上を図るための取組を行っています。

指標	基準値 2016年	目標値 2022年	2020年
各小学校における「自然ふれあい教室」及び「いのちの授業」の実施回数、人数	55回、2,023人	60回、2,200人	58回、2,250人

《資源を大切にすまち》

これまでごみの分別の徹底や家庭ごみの有料化などによる、ごみの減量とリサイクルの推進に取組んできました。ごみ減量化に向け3項目について目標値を設定し取組を行っています。

指標	基準値 2016年	目標値 2024年	2020年
1人1日当たりの家庭ごみ排出量	539g	520g	574g
事業系ごみ排出量	22,800t	21,400t	20,791t
リサイクル率	30.8%	33.0%	30.8%

《みんなで環境に取り組むまち》

環境保全の推進を図るためには、市民、事業者及び市それぞれの取組が必要です。三者により構成する環境基本計画推進会議による啓発活動によって市民意識の向上を目指した取組を行っています。

指 標	基準値	目標値	2020 年
環境基本計画推進会議事業参加者数	年間 80 名 (過去 10 年平均)	年間 100 名	143 名

《地球環境にやさしいまち》

地球温暖化を防止するため、国の対策・施策を中心とした取組を推進し、二酸化炭素の排出削減を目指しますが、他人から供給された電気の使用に伴う二酸化炭素排出係数の変動による影響を受けない、エネルギー消費量を目標値として設定しています。

なお、エネルギー消費量は国（経済産業省）が公表する統計資料を用い算定しており、公表時期が 2 年半程度遅れることから本市の現況についても同様に遅れることとなります。

本市のエネルギー消費量は 2017 年度 53,109TJ となっており、基準年度比 7.4%の減少となっています。エネルギー消費量合計が基準年度比において減少した要因は、苫小牧市のエネルギー消費量構成の約 8 割を占める産業部門のエネルギー消費量が大きく作用していることが挙げられます。

各年度のエネルギー消費量は以下のとおりです。

(単位:TJ)

部 門	2013 年度 (基準年度)	2016 年度	2017 年度	削減率	
				基準年度比	前年度比
産 業 部 門	46,333	40,731	42,738	▲7.8%	4.9%
業 務 部 門	3,126	2,550	2,419	▲22.6%	▲5.1%
家 庭 部 門	4,488	4,808	4,748	5.8%	▲1.2%
運 輸 部 門	3,008	2,886	2,880	▲4.3%	▲0.2%
廃棄物部門	402	346	325	▲19.2%	▲6.1%
合 計	57,356	51,320	53,109	▲7.4%	3.5%

※端数処理の関係から、実際の計算結果と一致しない場合があります。

せせらぎスクール 開催結果

資料 2 - 1

令和3年7月27日(火) 13:00~15:30
オートリゾート 苫小牧アルテン 覚生川にて

- ① 30℃を超えて蒸し暑い中でしたが、28名のお子さんが参加してくれました。
これから3グループに分かれて順番に体験します。



- ② 【生物調査コーナー】川の中に入って、網やざるを使って生き物をつかまえました。



- ③ 【風力発電コーナー】ペットボトルで風力発電機を作りました。
ペンやシールで飾りつけ、個性が光る作品になりました！



オリジナルキャラクター
を描いたり...

とてもカラフル
できれい！



風でプロペラが回り、LED ランプが光ったら発電成功です。走ったり、扇風機に近づけてみよう！



④ 【自転車発電コーナー】 自転車発電機に興味津々！ペダルをこいだチカラで発電し、扇風機を動かしました。20W の小さい扇風機から 100W の大きい扇風機にレベルアップ！



「楽しかった」との声をたくさんいただきました！

「頑張ってペダルをこいでもなかなか発電しない！」

「テレビは 200W だからもっと大変…」

「電気を作るのは大変だから、大切にしなきゃ！」

電気を作る大変さと、エネルギーの大切さを学んでもらいました。

⑤ 【水辺調査コーナー】 覚生川の長さ・水の深さ・水温・流れの速さなどを自分たちで調べました。



⑥ 薬品を使った水質調査や、つかまえた生き物を分類した結果、覚生川はきれいだということがわかりました。



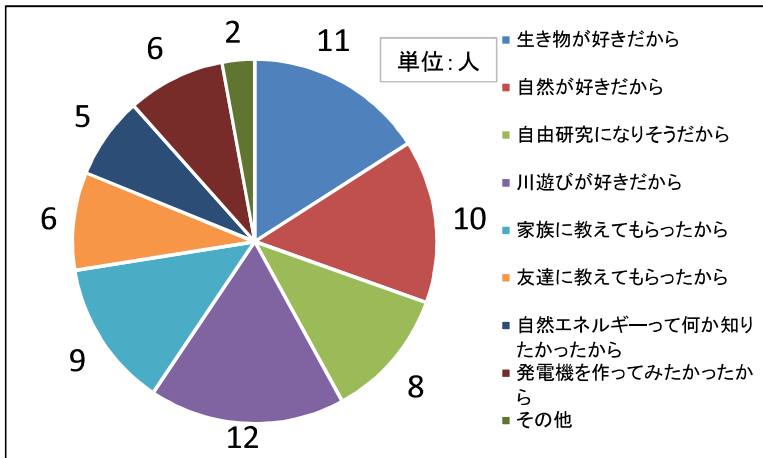
⑦ 最後に、参加されたお子さんで記念撮影をしました。



「せせらぎスクール(子ども用)」アンケート結果(回答26名)

開催日時: 令和3年7月27日(火)13:00～

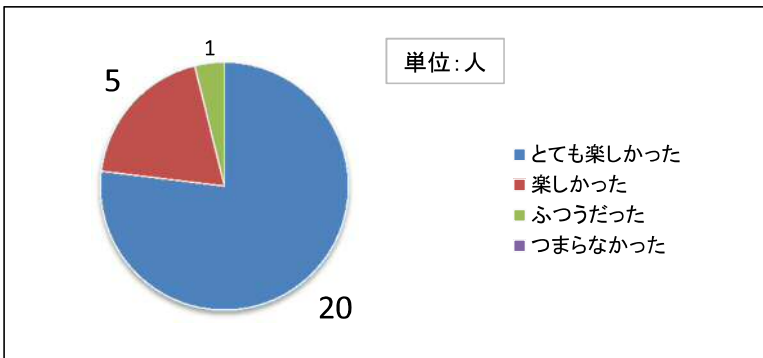
1 せせらぎスクールに参加しようと思った理由はどれですか？(いくつでもOK)



その他

- ・学校のプリントで知った
- ・電気のことを知りたかったから

2 せせらぎスクールは楽しかったですか？



理由(抜粋)

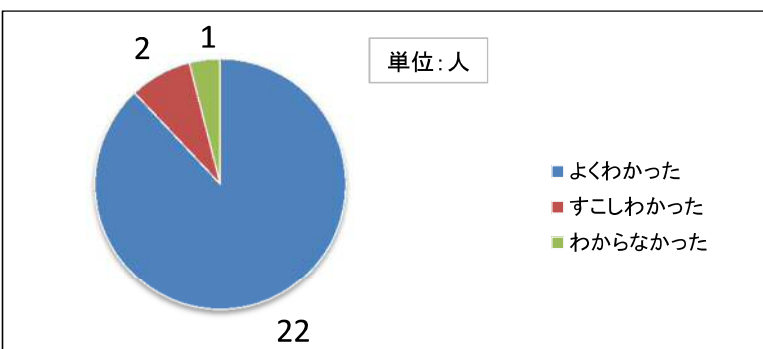
とても楽しかった

- ・川の水が冷たくて気持ちよかった
- ・風力発電機を簡単に作る事ができて楽しかった
- ・普段できないことが体験できた
- ・川でいろんな生き物をとれた
- ・自転車発電が楽しかった、またやってみたい
- ・川で虫を5匹もとれて楽しかった
- ・色々体験できて大満足だった！
- ・川遊びができて楽しかった
- ・発電のことや川のきれいさなどを初めて知った
- ・初めての体験でわくわくが止まらなかったから

楽しかった

- ・水に入って楽しかった
- ・虫をいっぱいつかまえることができた
- ・川の探検のほかに、電気についても学べた

3 自然の大切さについてわかりましたか？

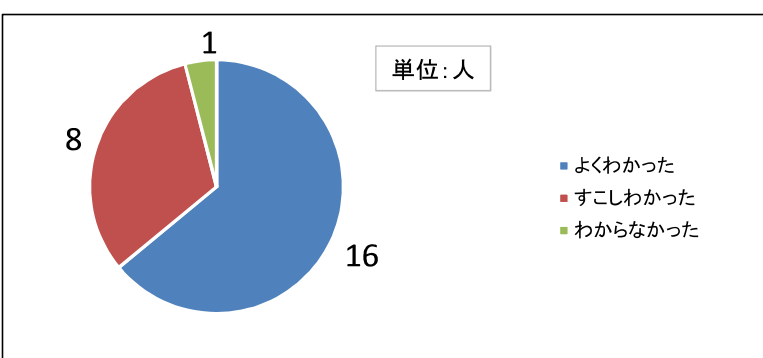


理由(抜粋)

よくわかった

- ・火力発電はCO2が出て地球温暖化になる
- ・昔の川もこんな感じだったのかな？と思った
- ・生き物が元気に生きるためには、川をきれいにしないとだめだと思った
- ・自然を大切にしないと生き物が減るとわかった
- ・水かさも知ることができた
- ・生き物はていねいに扱うこと
- ・地球温暖化がすすむと自然がなくなってしまうとわかった
- ・自然を利用して電気が作れるとわかったから

4 風力発電機を作ったり、自転車発電を体験したことで、エネルギーについてわかりましたか？



理由(抜粋)

よくわかった

- ・電気を少し作るだけでもすごい力がある
- ・自分で発電するのが大変だった、きつかった
- ・エネルギーは人にとって大切だとわかった
- ・テレビの200Wや電子レンジの500Wはすごい電力
- ・電気を作るのは大変で難しいと思った
- ・CO2が地球温暖化になるとわかった
- ・ワットについてわかった
- ・自転車発電は大変だった

5 今日のイベントで感じたことはどんなことですか？

(抜粋)

- ・川の中にはいろいろな生き物がいることがわかった
- ・色んな形の生き物がいておどろいた、ちょっと気持ち悪かった
- ・生き物探しが楽しかった、もっと探したかった
- ・葉っぱの近くや岩の下に生き物がいた！おもしろかった
- ・いもむしみたいな生き物がいておもしろかった
- ・きれいな川に住む虫を探ることができた
- ・川にゲンジボタルがいると知れておもしろかった
- ・川がきれいだと気持ちよかった
- ・川の温度や深さは場所によって違うのがおもしろかった
- ・風力発電は地球にやさしいとわかった
- ・風力発電を自分でやるのは大変だけど楽しかった
- ・電気の作り方がわかった
- ・電気は大切なものだと感じた
- ・工作が楽しかった

6 せせらぎスクールを通して、これからやろうと思ったことはどんなことですか？

(抜粋)

- ・もっと川のことを知りたい
- ・川の生き物をもっと知りたい
- ・生き物を大切にしていきたい
- ・自然を大切にしたい
- ・今度はメダカなども調べてみたい
- ・電気のつけっぱなしをやめる
- ・電気を無駄にしない、大事にする
- ・来年は自転車発電体験をやってみたい
- ・川にごみがあったら拾いたいと思った
- ・ごみを捨てないようにする
- ・環境保全に努めたいと思った

7 また、せせらぎスクールに参加したいですか？

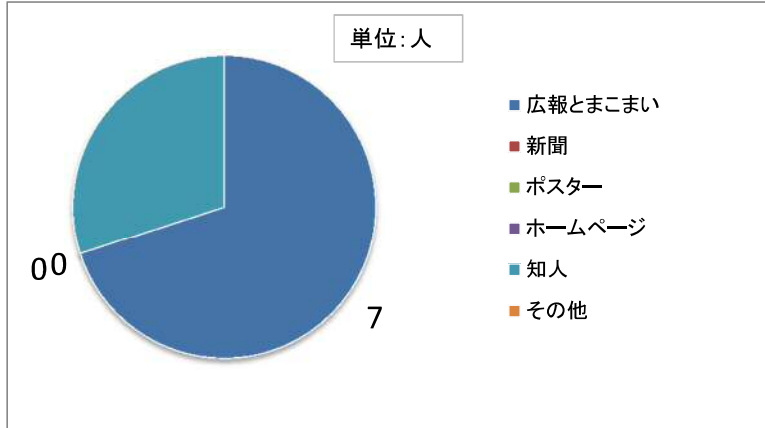
はい 26 (全員が回答)

いいえ 0

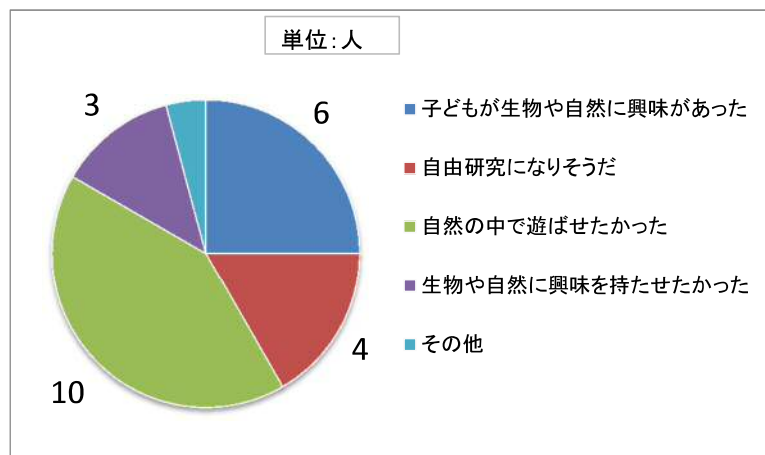
「せせらぎスクール(保護者用)」アンケート結果(回答12名)

開催日時: 令和3年7月27日 13:00～

1 本日のイベントをどうやって知りましたか?(いくつでもOK)



2 なぜ参加させようと思いましたか?(いくつでもOK)



3 参加してみて、お子様は楽しんでいましたか?



理由(抜粋)

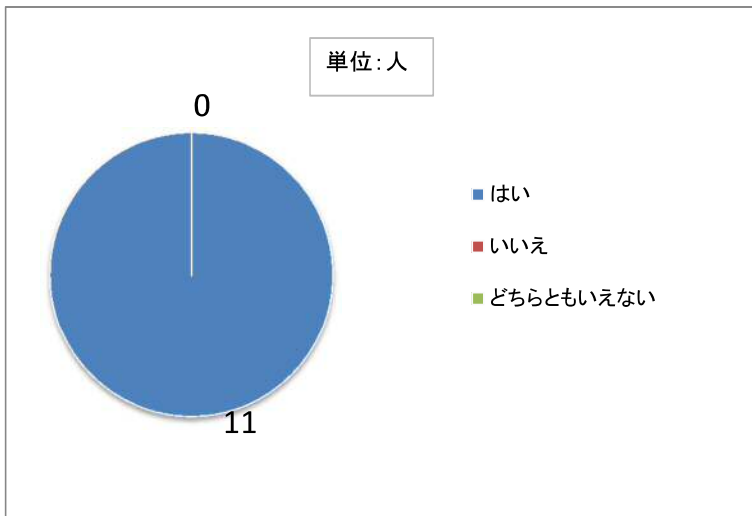
とても楽しそうだった

- ・川遊びが大好きなのでとても張り切っていた
- ・すべての企画にイキイキと参加していた
- ・虫が苦手な子どもが、水中生物をつかまえてうれしそうにしていた
- ・風力発電の製作ができてよかった
- ・川の長さを測ったりを自分でできてよかった

楽しそうだった

- ・水の中の生き物を夢中になって探していた

4 お子様に説明内容や自然を大切にするという意図は伝わっていましたか？



理由(抜粋)

はい

- ・電力や水の説明など分かりやすかった
- ・難しいことはわからないかもしれないが、汚さないようにしようと言っていた
- ・小学1年生なので難しいこともあったようだが概ね理解していた
- ・実験の内容も分かりやすかったので伝わったと思う

5 本日のイベントを通して感じたことはありますか？
(抜粋)

- ・自然の中で遊ぶのは色々学べてとてもよかった
- ・自然の中で走り回ることのできる時期を大切にしたい
- ・遊ぶ場所が制限される世の中でこのような体験は非常に大切だと思った
- ・川遊びをするだけでなく、きれいな水だから住める生き物がいることまで考えることができた
- ・自然の大切さやエネルギーの大切さ
- ・普段味わえない体験ができた
- ・理科の実験みたいで楽しい
- ・子どもが興味を持つ声かけなどをしてくれた
- ・楽しくてあつという間だった

6 本日のイベントをきっかけに、今後お子様と一緒に取り組みたいことはありますか？
(抜粋)

- ・キャンプ
- ・川遊び、川で魚獲り
- ・生き物をつかまえること
- ・今日つかまえた生き物を調べたい
- ・苫小牧の自然環境について調べてみたい
- ・ニュースを見るときに、身近な環境について話し合っていきたい
- ・地球をなるべく汚さず、きれいにしていくこと

突撃！とまエコ企業@JCCS 実施概要

1 趣旨・目的

苫小牧市内の企業におけるエコな取組を取材し、作成した動画をインターネット上で公開することで、市民への環境啓発を行う。

3 企画概要

- (1) 日程 【撮影】令和3年8月30日(月) ※予備日31日(火)
【公開】令和3年10月予定
- (2) 取材先 日本 CCS 調査株式会社苫小牧 CCS 実証試験センター
- (3) 公開方法 苫小牧市公式 YouTube チャンネルにアップロード
- (4) 周知 環境保全課 HP、Facebook、Instagram

4 撮影方法

取材者が企業担当者と一緒にカメラに映り、事業所を見て回る。

5 動画構成 (5分程度)

- | | |
|----------------------------|---------|
| ①オープニング、企業概要説明 | (1分30秒) |
| ②施設全体の説明 | (1分00秒) |
| ③CO ₂ 分離・回収塔の説明 | (1分00秒) |
| ④圧入井の紹介 | (1分00秒) |
| ⑤担当者からの環境メッセージ | (0分30秒) |

6 機材

- ・家庭用ビデオカメラ (SONY HANDYCAM シリーズ)
- ・ガンマイクもしくはピンマイク 2 個 (ガンマイクとピンマイク同時接続不可)
- ・三脚



貴社の取組、

動画にさせてください！

苫小牧市環境基本計画推進会議（事務局：環境保全課）では、市内でエコな取組を行っている企業や工場に突撃しています！

現地を当課職員にご案内していただき様子を撮影・編集し、市公式YouTube・HPへアップロードします！ →
（動画時間：5分程度を想定）



貴社の環境保全に向けた取組を、市内外へPRさせてください！

○2020年度の突撃先（左：(株)イワクラ、右：苫小牧バイオマス発電(株)）



連絡先 苫小牧市環境保全課

TEL : 0144-57-8806 FAX : 0144-57-8809

kankyo-hozen@city.tomakomai.hokkaido.jp



ウトナイ湖漁業体験&湖岸スクール実施概要

1 趣旨・目的

ウトナイ湖の水質調査実施の結果を踏まえ、生息できる魚種など漁業体験を通した中から、自然や生物とのふれあい方など自然環境保全の大切さを学ぶ。

2 実施内容

湖岸スクール・ウトナイ湖にて水質検査を行う。

参加者配布・COD パックテスト、測定表

(ウトナイ湖、他の川の水質を比べる)

結果考察・パックテストの結果から魚の生態を学び、この後の漁業体験時に実際にウトナイ湖にはどんな魚がいるか興味を持ってもらう。

また、魚が住める川にするためにはどうすればいいのか、水辺環境と生物の生息地域の関連性を学び、環境保全の大切さを学ぶ。

漁業体験・ウトナイ養殖漁業会指導のもと、地引網により漁を体験する。

試食・実施しない

3 企画概要

- (1) 主催 苫小牧市環境基本計画推進会議（環境生活課共催）
- (2) 日時 令和3年9月4日（土）9時00分～12時00分
- (3) 会場 ウトナイ湖（集合場所：野生鳥獣保護センター）
- (4) 講師 環境保全課職員、ウトナイ養殖漁業会
- (5) 対象 漁業体験参加者のうち小学生（保護者含む）30名前後
- (6) 開催告知 広報とまこまい8月号（環境生活課で掲載）
- (7) 申込期間 令和3年8月10日（火）～8月30日（月）
- (8) 申込方法 環境生活課またはウトナイ湖野生鳥獣保護センターに電話
- (9) 事業評価 事業結果はHPに掲載

4 その他

- ・現地集合、現地解散とする。
- ・小学3年生以下の幼児、児童が参加する場合は必ず保護者同伴とする。
- ・推進会議委員の役割：体験中における参加者の安全確保及び補助。

事業中止

親子森林整備体験「秘密基地をつくろう！」 実施概要

1. 趣旨・目的

自然の中で、遊びや体験を通して森林整備を学び、森林環境保全への意識を高める。

2. 実施内容

スタッフの指導のもと、間伐を体験し、間伐材による秘密基地作りや薪割り等の体験を通じて、森林整備の大切さを学ぶ。

3. 企画概要

(1) 主 催	苫小牧市環境基本計画推進会議
(2) 日 時	令和3年11月13日(土) 10:00~12:00 ※荒天の場合は中止(小雨程度であれば開催)
(3) 会 場	イコロの森 ※現地集合・現地解散
(4) 講 師	NPO 法人いぶり自然学校
(5) 対 象	苫小牧市民の親子20名(子は小学生以下)
(6) 開催告知	広報とまこまい10月号、広報メモ、HP、ポスター、Facebook等
(7) 申込期間	10月1日(金)~10月15日(金) ※抽選
(8) 申込方法	電話、FAX、電子メール、電子申請
(9) 事業評価	参加者アンケート、事業結果は推進会議HPに掲載
(10) 予 算	講師謝礼 50,000円 消耗品 29,046円 食糧費(とまチョップ水) 4,000円 火災保険料 2,120円 会場賃借料 5,000円

4. その他

- ・体験中は参加者の安全確保及び補助が推進会議委員の役割となる。
- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止策を講じる。

事業中止

事業概要（案）

「親子でエコ・クッキング教室 ～地球温暖化防止について一緒に学ぼう～」

1. 趣旨・目的

地球温暖化防止についてのミニ講座や、環境への負荷を減らす省エネ料理を子どもと一緒に実践していく中で、家庭でもできる身近なエコ活動について学ぶ。

2. 企画概要

- (1) 主 催 苫小牧市環境基本計画推進会議
(事務局：環境保全課)
- (2) 日 時 令和 4 年 2 月〇日 11:00～14:00
- (3) 会 場 苫小牧市民活動センター 5階 料理実習室
苫小牧市若草町3丁目3番8号
- (4) 協 力 北海道環境生活部環境局地球温暖化対策室
- (5) 講 師 北海道地球温暖化防止活動推進員
- (6) 対 象 苫小牧市民の親子(小学生以上)対象 20名※抽選
- (7) 事業評価 参加者アンケート、事業結果は推進会議 HP に掲載
- (8) 周 知 広報とまこまい2月号、フェイスブック、ホームページ、ポスター、チラシ
- (9) 募 集 2月1日(火)～2月11日(金) 先着10組
電話又は FAX、メールに氏名、年齢、住所、電話番号、参加人数を記載し、環境保全課まで申込む
- (10) そ の 他 託児所設営(実習室隣りプレイルーム)

3. 実施内容

・省エネクッキングの実践、地球温暖化防止ミニ講座。

4. 当日のスケジュール

時 間	内 容		
9:00	会場設営開始	運営・講師	
10:35	託児受付開始	運営	
10:50	一般受付開始	運営	
11:00	開会 主催者挨拶 講師紹介 本日の実施概要説明	運営	
11:15	エコ・クッキング説明	講師	
11:25	エコ・クッキング調理実習	講師	「地球温暖化防止ミニ講座」 保温時間中 20分程度
13:00	試食と講評 全体写真撮影	全員	
13:30	後片付け	全員	
14:00	閉会・解散		

・推進会議委員の役割：参加者の調理実習の補助となります。

令和4年度実施企画案一覧（新規）

資料3

番号	提案者	名称	時期	場所	対象	実施内容	期待される効果	備考
1	中島委員	植林・育樹体験	10月～11月	アルテン 出光カルチャーパーク 緑ヶ丘公園等の森林があるようなところ	小学生～中学生	植樹体験と落ち葉の堆肥づくり (植樹は秋が時期らしく、秋なので落ち葉もあるので、これを集め、簡易的な堆肥づくりから、植樹する木と一緒に埋める。)	植樹体験を通し環境の推進。 落ち葉の堆肥づくりを通して、森の大切さ、環境の輪廻を深く学んでもらう。	
2	前山委員	再生紙づくり	夏休み期間	市内の公共施設	小学生	身近にある牛乳パック、ダンボール、使用済のコピー用紙など廃棄される予定の紙を利用し、新たな紙を生成する。	身近な資源の利活用の発見と理解の促進。	
3	南委員	エコ・リサイクル企業見学会	9月～10月	JX金属苫小牧ケミカル株式会社	苫小牧市民	エレクトロニクス機器のリサイクル 廃OA機器リサイクル リチウムイオン電池リサイクル 貴金属のリサイクル 再生可能エネルギーについて学ぶ	エコ企業見学することで、市民のエコ・環境意識につながり、環境に配慮した商品の購入につながります。	予算 ①食糧4,000円(水) ②保険料2,500円 ③使用量51,700円 (バス借上げ) 計58,200円

「既存事業」

4	川上委員	せせらぎスクール	夏休み期間	市内河川	小学生	川で生物の採取、観察、水質調査	身近な自然環境の発見	
5	保田委員	森林整備体験	夏休み期間		苫小牧市民の親子	森林整備体験	間伐の大切さを知ってもらう	

「事務局案（新規）」

6	-	「身近な脱炭素」見学会	コロナの影響が無い時期	ZEH：ZEH型モデルルーム等 水素自動車、電機自動車：トヨタカローラ等の販売店	市民一般	ZEHについてモデルルームを視察。高断熱・高気密・自家消費型発電等について学ぶ。 V2H設置しているモデルルームにて、V2Hについて学ぶ。 水素・電気自動車等の低炭素型車両を見学。可能であれば実際に運転も。 苫小牧市や国・道の補助金の紹介	企業の脱炭素の取組のみならず、市民が身近に（お金をかければ）実施できる脱炭素技術について学び、補助金の宣伝も行う事で導入意欲を増進する事が可能。	移動費等は必要になると思うが詳細未定。
---	---	-------------	-------------	---	------	--	--	---------------------